

生きることと死ぬこと

～身終いに向けての哲学～

期間 27年 2月24日(火)～3月24日(火)[全5回]

応募締切
27年2月10日(火)

実施場所 九州国際大学地域連携センター(サテライト・キャンパス)
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 コミュニティ2階(38ページ地図参照)

申込・問合せ先 九州国際大学地域連携センター 担当：今井・片山
〒806-0021 八幡西区黒崎3-15-3 TEL：631-2203 FAX：631-2204

時間 18:30～20:30

定員 30名

受講料 4,000円

コース概要

実施機関：九州国際大学地域連携センター

人間は、生まれてから生きることを始め、いつかは必ず死にます。我々は、誰にでも訪れる、そして決して避けることのできない「死」について、いかに向き合っていくべきでしょうか。

この講座では、生きることと死ぬことについて考えることを通して、人間として今ここにある我々が、いかなる存在であるかを探求することを目指します。

具体的には、安楽死・尊厳死といった「人生の終末における死のあり方」等を題材にしつつ、この問題について、受講される皆さんと共に考えていきます。

月 日	テーマ・内容	担当講師
2月24日 (火)	「死」とは何か? 例えば「脳死」「安楽死」「尊厳死」という言葉を耳にすることも多いと思います。また、家族や友人の死に接したことがある方も多いと思います。では、そもそも「死」とは何でしょうか。	九州国際大学 教授 松井 貴英
3月3日 (火)	死の自己決定権について(1) 多くの人が「ピンピンコロリ」と畳の上で死にたいと思っているでしょう。しかし、それを実現できる人は驚くほど少なく、病院のベッドの上で亡くなる人の方が多いでしょう。我々は、自分が希望する死に方を選択することはできないのでしょうか。	
3月10日 (火)	死の自己決定権について(2) 現在では、「脳死」と判定された場合、積極的に拒否していなければ家族の承諾で臓器提供が可能です。そのとき、身体は資源のように扱われることになります。我々は死ぬことによってでさえ、私的な存在としてあることを認められないのでしょうか。	
3月17日 (火)	生き方と死に方について 古来、人間は魂の永遠の存在を、宗教を根拠に信じてきました。宗教への信心が死後の魂の永遠性の保証となるわけではないですが、宗教における死生観を、生き方や死への対し方へのヒントとすることは有益なことかもしれません。	
3月24日 (火)	哲学カフェ「生きることと死ぬこと」 最終回は、「哲学カフェ「生きることと死ぬこと」」と題し、受講者同士で、「生きることと死ぬこと」をテーマに、対話をしていきます。都合四回の講座を通して学んだことや考えたことを、お互いに話し、聞き、建設的な哲学対話により、自分の死生観を作り上げていくきっかけにしていけることを目指します。	